

カラーページ「2006年7月14日に撮影された落雷」 についてのコメント

「天気」Vol. 54, No. 9のカラーページ (p. 4) の記述に誤りがあるので、コメントする。

第1図 a の木の中から大地に放電が起きているような像を、木から地面への放電路と解して記事を書いているが、これは上方の明るい放電路の像がカメラレンズ内部で反射して結像した一種の鏡像である。これは雷の静止写真を近距離から撮影した場合によく見られる。カメラが固定されている場合は、同図 d や e にも同じ位置に鏡像があらわれるはずだが、フレームによってぶれが見られるので、手持ちで撮影されたものと思われ、カメラは固定されていないようである。恐らくそのために、d, e の画像には、別の位置に鏡像があらわれている。この雷は近いが、木々の後に落

雷しているのであろう。落雷が、撮影されているような密生した枝葉の間をくぐり抜けて地面に落ちることはない。また側撃は、人体のような、ある程度高さをもつ物体に、放電路が飛び移る現象で、画像のように高い位置から大地に向かって新たな放電路が形成されることはあり得ない。3つの帰還雷撃が撮影されたという記述は正しいと思われる。

(東京大学生産技術研究所 石井 勝)

参 考 文 献

酢谷真巳, 2007: 2006年7月14日に撮影された落雷. 天気, 54, 763-764.